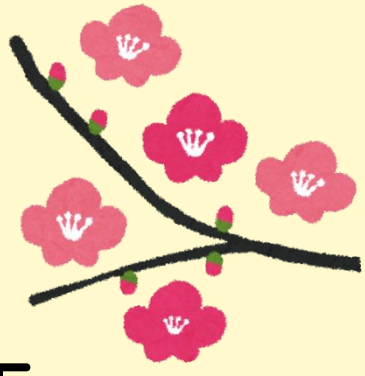
避難者と支援者による



東日本大震災 10 年

当事者団体・支援団体交流会報告書

2021 年 3 月 8 日開催

主催　広域避難者支援連絡会 in 東京
共催　Voice from 3.11 実行委員会

あいさつ

2020 年初より突如現れた新型コロナウイルス。感染拡大防止により、同年 2 月末に予定していた第 5 回ふれあいフェスティバルは直前まで様子をみた結果、やむなく開催中止とし、以降、避難者の皆さまで集まることができない状況が続いてきました。

そのような中で、今年の 3 月 11 日、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故から 10 年を迎えることとなりました。10 年を迎えるにあたり、震災をきっかけにこれまで知り合った避難者の皆さま、支援者の皆さまが再び交流する機会を持ち、懐かしい顔を見て、久しぶりに言葉をかわして、心温まる時間を皆で過ごすことを目的に開催させていただきました。

本交流会の開催にあたり、特に今回は新型コロナウイルス感染拡大防止下により初めてオンラインとのハイブリッド型で開催するうえで、実に多くの方々からのご支援やご理解をいただきました。皆が和やかに集う、まさに願っていたような場となったこと、深く心より感謝申し上げます。

10 年が経った現在も、避難生活を余儀なくされている方々は全国で約約 4 万 1,000 人(復興庁: R3.2.26)、そのうち都内に避難されている方々は 3,683 人(復興庁: R3.2.8)です。依然、多くの方々が避難生活を続け、全都道府県の中で、県外避難としては東京都に最も多くの避難者がいらっしゃいます。本交流会を、共に分かち合う思い出の 1 ページに追加し、11 年目も皆さまとのつながりを大切に歩んでまいります。

2021 年 3 月

広域避難者支援連絡会 in 東京

概要

タイトル	東日本大震災 10 年 当事者団体・支援団体交流会
日　　時	2021 年 3 月 8 日（月）13 時 30 分～15 時 30 分
場　　所	飯田橋セントラルプラザ 10 階・オンライン（Zoom）
参 加 者	51 名（うち、避難者 9 名）※1
主　　催	広域避難者支援連絡会 in 東京 ※2
共　　催	Voice from 3.11 実行委員会

※1 避難者が属する当事者団体：
ふるさとを想う会、特定非営利活動法人とみおか子ども未来ネットワーク、さんりくのつながり HAMANASU 会、むさしのスマイル、双葉町埼玉自治会、かながわ東北ふるさと・つなぐ会

※2 参加団体：
荒川区社会福祉協議会、いたばし総合ボランティアセンター、AAR Japan[難民を助ける会]、NPO 法人こどもプロジェクト、金光教首都圏災害ボランティア支援機構、災害復興まちづくり支援機構、こくみん共済 coop＜全労済＞、中央労働金庫、東京足湯プロジェクト、東京災害ボランティアネットワーク、東京都生活協同組合連合会、東京ボランティア・市民活動センター、東京労働者福祉協議会、連合東京

総合司会を務めた
東京都生活協同組合連合会の
奥山さん

開会式

開会の挨拶

○広域避難者支援連絡会 in 東京代表　災害復興まちづくり支援機構　横山 聡　さん

「10 年経ち、果たして何がどの程度復興してきたのか」「復興とは何か」という課題提起の後、10 年経ったから終わったのでは全くなく、人とのつながりから生まれてくるものを心の支えにし、この先を考える手がかりにし、今後もこの活動を続け集まり続けたい、という力強いメッセージがありました。

○ふるさとを想う会代表　木幡　四郎　さん

「コロナのためなかなか会える機会がなくなってしまっているが、ここでへし折れないように、これからも皆の協力と知恵による新たな絆をもって頑張っていきたい」とお話いただきました。

広域避難者支援連絡会 in 東京の取組みの振り返り

2013 年 5 月に当連絡会が設立されて以降、当事者・支援者ともに取り組んできた数々の協働事業について、写真のスライドを見ながら、順に振り返っていきました。当日の参加者のうち、それぞれの取組みに関わったメンバーに当時のお話をお聞きし、併せて、最近のくらしや活動についても伺いました。

元・福島県被災者同行会の矢内さん(右)は、一昨年戻られた福島県楢葉町の自宅よりオンライン参加。玉川大学の原田先生からは、掃除を手伝いに行ったお話も飛び出しました。2015 年ふれあいフェスティバルを振り返り、「当時は喜んでいただけてよかった」「今日は皆さんのお顔を久しぶりに見ることができてよかった」とのコメントをいただきました。

2015 年ふれあいフェスティバルでの初お披露目以降、恒例になったふたば音頭についてコメントする、双葉町埼玉自治会の西内さん。震災以降は披露する場を失っていたところ、東京や神奈川にも声をかけ 50 名弱で踊ったことを振り返りました。参加者の皆さんが見よう見まねで加わってくれたことも嬉しかったとのこと。

元・双葉町復興支援員の飯嶋さん(右)は、当時は西内さんお一人で電車に乗って飯田橋まで来ることは考えられなかったとのこと。

スクリーンに映る加藤さんを見つめる飯田橋会場の様子

さんりくのつながり HAMANASU 会の加藤さんは、声をかけられ急遽 2014 年のバスハイクに参加し、医療ソーシャルワーカーとしてその場で何人かの相談に応じる場をいただいたことを感謝と共に振り返りました。コロナが落ち着いたらまた参加していきたいというお言葉もありました。

むさしのスマイルを設立した翌年 2013 年にパネリストを務めた広域避難者支援ミーティングを振り返る岡田さん。育児との両立を受け入れてもらえたおかげで発言できるようになったことや、ようやく子育てに一息つけるようになった今後の活動予定についてもお話いただきました。

Zoom 参加者の様子

東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋会場)に集まった参加者の様子

Voicefrom3.11 に寄せられた「ことば」の紹介

震災 10 年を機に思うことを、ことばにして寄せていただく取組み Voice from 3.11。避難されている方からいただいたものを 3 つご紹介しました。

広域避難者支援連絡会 in 東京の福田さん

さんりくのつながり HAMANASU 会の武田さん

ことばの紹介

○さんりくのつながり HAMANASU 会　武田さん

親戚や近所の人が津波に流され亡くなっている中、生き残った者としての使命を感じていること、これまで支援団体・当事者団体での集まりや様々な発信をしてきたけれど今はコロナでできない歯がゆい状況が続いていることについてお話いただきました。

○さんりくのつながり HAMANASU 会　橋本さん

あっという間の 10 年だったこと、たくさんの方が亡くなった中で、毎日元気に生きていきたいという想いをお聞かせいただきました。

○ふるさとを想う会　木幡さん

当時を振り返り、東京に来たばかりの頃は家から一歩も出られなかったこと、しかし素晴らしい交流の場を持つことができたことで、10 年経った今、ふるさとに戻れるのか戻れないのか、じっくり考えて答えを出せるようになった気がする、というお気持ちをお聞かせいただきました。そして、移住者も一定数いるふるさと浪江町は、活気ある新しいまちとして復活しようとしているのではないか、こうした様々な団体からの支援や交流会の場をいただくことで今皆が元気に過ごせているのではないか、というメッセージもいただきました。当時から木幡さんを知る広域避難者支援連絡会 in 東京参加団体（東京災害ボランティアネットワーク）の福田さんからは、木幡さんに出会ったときはすでに様々な動きを取り、ただ支援を待つのではなく自ら声をあげていたこと、恐らく怒りや憤りをこらえて多様な連携を実現してきていることは、自分自身も学んでいるとコメントがありました。

閉会式

閉会の挨拶

○かながわ東北ふるさと･つなぐ会　松尾　弘美　さん

ふるさとの実況放送を含む震災 10 年に関するあらゆるメディア発信を視聴していたところ、心が重くなり、居ても立ってもいられず友人に連絡し気持ちを吐き出した翌日にこの交流会で皆さんとお会いでき、清涼剤をもらった、また前向きに進んでいきたい、とお言葉をいただきました。